

プロポーザルへ参加のあった2グループの技術提案書に関して、審査講評としてまとめましたので、以下に示します。(プレゼンテーション発表順に記載。)

1 個別講評

(1) グループ記号B5

【事業全体に関する提案】

要求水準で示す5つの方針プラス1の施設整備コンセプトの提案で、設計・施工一括発注方式(デザインビルド方式:以下、「DB方式」という。)の特性を活かした具体的な取組みはやや一般的な内容となっているものの、設計、施工の実績や実施体制、緊急時の対応の他、確実なコミュニケーションへの取組み方針が示されていました。

工事工程ごとの具体的な計画やフロー図により明確かつ分かりやすい工事ステップが示され、最終引渡し時期を要求水準より5か月程度短縮する工程計画は、確実な業務推進が前提となるなかで、DB方式の特性を踏まえた工夫として高く評価されました。

また、工種ごとに管内地元企業を積極的に登用する提案で、11社からの関心表明書を事前に取得している点、県産材の基本活用及び洗面器への砥部焼の採用、パート雇用、燃料・事務用品の地元購入など、地域経済への各種貢献方策が評価されました。

【施設計画に関する提案】

新斎場の待合ゾーンを2階に配置することで建築面積がコンパクトになった結果、外構に余裕が生まれて要求水準以上の56台分の駐車台数を確保する提案で、2葬家が利用できる車寄せや、バックヤードへ車両が入れるメンテナンス動線など、利便性が高く機能的な配置計画が特に評価されました。

2ブロック2ウェイによる独立運用も可能な建物は、管理部門を中央に置くことで動線の棲み分けができており、機能的で利便性の高い計画となっており、各ゾーンに対応した待合スペースは、火葬スケジュールなど運用の考え方にもよりますが、2台のエレベーター設置による縦動線を含めた効率的な平面・動線計画が提案されていました。

空間計画としては、周辺環境に調和した外観意匠デザインとともに、送る側の心情に沿った庭園、花木で外構空間を演出しており、各ゾーンの告別・収骨室や共用ゾーンに趣向溢れる空間が提案され、シーンごとに利用者の状況が分かりやすく表現されるなど、厳粛で荘厳な儀式空間づくりへの積極的な提案が評価されました。

なお、環境配慮型施設として長寿命化や省エネルギー等について、提案されましたが、受電設備(キュービクル)や非常用発電機を屋上設置としており、メンテナンス動線を含めた機能維持面では配慮が必要であるとの指摘がありました。

仮設待合棟は、事務室の前を必ず通り、待合室同士をできるだけ隣接させない配置が提案されている一方、外壁仕上が1面のみ化粧系の意匠と室内床仕上が塩ビシートにとどまっている点は配慮があったら良いとの意見、評価となりました。

【火葬炉設備計画に関する提案】

これまでの実績と耐震性の実証により、災害に強く一定の耐久性を有する火葬炉設備となっており、火葬中の安全性、トラブル対応についての設備スペック、ネットワークなどが具体的に示され、安定的な火葬業務の提案が示されていました。

操作性においては、ヒューマンエラー防止策として、自動化による操作性、効率性、利便性が詳しく示されており、予防保全システム、手動運転への簡単切替え、残骨灰の集塵システムなど確実かつ効率的な運営が可能な機器性能を有する提案となっていました。

火葬炉の環境性能、燃焼効率の説明も具体的に示され、急速冷却によるダイオキシン対策、有害物質の除去など環境性能の高い提案となっており、メンテナンスルートを確保し

たうえで予防保全の日常保守体制、遠隔メンテナンスによる緊急時対応のアフターサービス体制が組み立てられており、各種ランニングコストの縮減策も含め、総合的に高機能でメンテナンス性に配慮した提案が評価されました。

【施工計画に関する提案】

施設利用者が誤って工事エリアに進入しない仮囲い対策や、交通誘導員による車両導線分離、リスクアセスメント対応が示されており、工事期間中の利用者駐車場を待合棟付近に配置し、利用者の利便性を向上させる提案が評価されました。

また、品質確保のプロセスとコンクリート打ち放しを美しく保つための打設工法の工夫など、分かりやすく具体的な提案となっており、騒音、振動、粉じん対策や各種環境対策、リサイクル対応についても一定の提案がみられました。

(2) グループ記号 A 4

【事業全体に関する提案】

提案コンセプトの具体化の他、建設工事共同企業体（ジョイントベンチャー：以下、「JV」という。）内での委員会の設置や総合定例会議により要求水準確認、コスト管理など事業の安定性とリスク管理の方策等が具体的に提案され、各業務それぞれにマネジメントリーダーを配置し、有資格者配置、緊急連絡先体制の構築、新型コロナウイルス感染症対策など、DB方式の特性を最大限に活かす方針や、各ステップにおける具体的な取り組みの提案が高く評価されました。

事業期間は、令和6年4月の新斎場供用開始、令和7年3月の最終引渡しなど要求水準を踏まえた工程計画となっていました。

管内建設事業者とのJV構成に加え、地元14企業それぞれへの具体的な発注予定額を提案段階で示す他、県内産の木材、青石、砥部焼活用を図面に例示するなど、地域経済への貢献提案として高く評価されました。

【施設計画に関する提案】

一方通行の車路及び駐車場奥の回転スペース、6.5mの奥行のある庇による利便性の高い車寄せの他、庇付きの渡り廊下、祈りの広場、癒やしの丘といった多様な外構施設と車庫棟の配置など、機能的かつ工夫された土地利用計画の提案となっていました。

建物は主要機能のワンフロア構成で水平移動が中心となる利点がある一方、待合ゾーン全体が動線も含めて少し窮屈な印象で、複数利用時、葬家の交錯が懸念されるとの指摘がありました。

空間・景観計画としては、ガラス張りによる自然光を取り入れたエントランスホールや中庭の設置、自然石の内装と調光による告別・収骨空間を分かりやすく表現し、現代的でシンプルな外観デザインの構成と、心理推移に寄り添う空間変化、告別収骨室照明の演出で遺族へ配慮を行うなど落ち着いた内部空間の提案が高く評価されました。

環境配慮面では、山沿い特有の風を利用した中庭や太陽光発電設備（10kw）の設置など各種省エネルギー対策の他、雨掛りによる防汚対策、劣化軽減への配慮など具体的な提案内容が評価対象となりました。

仮設待合棟も、スロープと庇付きの渡り廊下で雨天時に配慮した計画で、外観全周を化粧系の仕上材料、待合関連スペースをタイルカーペット仕様とするなど、意匠性や上質な室内空間が高く評価されました。

【火葬炉設備計画に関する提案】

トラブルの未然防止、事故発生時・災害時の体制が詳細に示され、高い耐久性により故障を起こさせない機器設計及び安定性の高い排ガス処理システムが提案されていました。

自動運転による簡易な操作と各種センサー、インターロックの採用、視認性・操作性の高いタッチパネルによるトラブル防止策が提案され、棺の運搬を炉内台車で兼用するよう

になっており、操作性・事故防止策と効率性が評価されました。

環境面では、燃焼効率を最大とした主燃焼炉により臭気の発生をなくし、再燃焼炉によりダイオキシン類の発生を低レベルとするなど環境性能に優れた提案となっていました。

維持管理面では、機器配置に余裕を持たせ、機器搬出入用吊りフックを設置する等の一定の工夫が提案されており、運営システムのモニター配置や火葬スケジュールが具体的に立案されている点が評価対象となりました。

【施工計画に関する提案】

工事中の交通誘導員の適正配置等で工事用車両の安全確保を図り、解体工事の騒音、粉じん対策などが具体的に示されており、施設利用者への配慮が提案されていました。

品質確保としては、施工計画、工事監理方針、工程管理による対応、各段階での検査、適切なモニタリング計画が示され、ICT（情報通信技術）を活用した端末を使ったデータ整理など具体的な方策も提案されていました。

環境配慮では、仮設待合棟への渡り廊下を本設利用とするなどの廃棄物削減方策や、工事現場における新型コロナ対策、アスベスト処分対策など具体的かつ幅広い視点による提案が評価されました。

2 総評

B5の提案は、2ブロック2ウェイ構成の待合ゾーンを2階に配置したコンパクトなオリジナル性がある建物であり、特に葬儀の多様化に対応したプランでした。また、工事中の仮設待合棟利用者への動線配慮や、完成後のゆとりある駐車場及びメンテナンス通路の確保など、本敷地の形状、特性や建替えローリングを前提とした事業条件を巧みに読み取った施設計画で、工期短縮も含めてDB方式における効果的な工夫がみられた提案でした。火葬炉設備においても、豊富な納入実績に基づく高機能な設備として、安全性や操作性に加え、緊急時対応への万全な備えなど維持管理面においても配慮されたオリジナル性のある提案内容となっていました。

A4の提案は、DB方式のメリットを活かしつつ、地域貢献度の高い堅実な事業提案であり、要求水準を的確にとらえた施設計画は、主要スペースが1階平面で構成された機能的な配置・動線の実現と同時に、魅力ある外観・内部空間デザインが提案されていました。ただし、比較的条件的に厳しい山間部敷地における現地建替の整備提案として、工事中の利用者動線や最終的な施設配置の利便性、太陽光発電設備の実効性など、もう少し立地特性に即した工夫や提案が欲しかったとの意見、指摘がありました。火葬炉設備は、独自の技術を最大限活かした要求水準以上の設備が提案されている一方で、緊急時対応における懸念が残る内容となりました。

最後に、2者の評価点は僅差の結果となりましたが、いずれの提案内容も民間企業の創意工夫、ノウハウを結集した高い水準であったことを申し添えます。

また、提案にあたっては多大な労力と時間を費やしている点も含め、本事業提案に対する各者の並々ならぬ努力と熱意に対し、選定委員会一同、深く敬意を表するものです。

選定された提案に基づき、今後具体的な設計へと進んでいきますが、審査の過程で出された検討事項や飛地の活用について、設計等に十分取り組まれますよう付帯意見として求めますとともに、組合と選定事業者が一致協力し、よりよい斎場整備が実現されることを期待します。

伊予地区広域斎場聖浄苑改築工事事業者選定委員会